



西鐵組合新聞

【発行所】福岡市中央区大手門1丁目4番16号
TEL092-771-2931 西日本鉄道労働組合
【編集発行人】川瀬直之
定価 1部 30円 分送共
(この新聞は会員費の中心から購読料を徴収しています。)
西鉄労組ホームページ (<http://nnr-u.org>) ▶

おり決定された。

11月29日(水)、西鉄労働会館にて、「第2回中央委員会」を開催し、活発な議論のもと、「2017年秋季年末闘争並びに退職金闘争妥結に関する件」など、全ての議案が原案ど

「第2回中央委員会」開催



——本日は、大変お忙しい中、お時間をおついていただき、ありがとうございます。早速ですが、本部長に就任されて数ヵ月たちました。今でも「委員長」という声に振り向くことはありませんか？
佐田：自分自身では切り替えが早い性格だと思っていますが、たまたまありますね(笑)。
——全労済では、どのようなお仕事をなさっているのでしょうか？

2017年7月をもって退された、佐田正一前執行委員長。23年もの永きにわたり、組合専従員として組合運動の発展に尽力され、医療共済制度の新設など、様々な革新的取り組みを実施されてきました。現在は全労災福岡推進本部長として、「元気躍されてますが最近組合員の皆さんから、「そこで佐田委員長は今どうしてうと?」といった声をよく聞くようになりました。そこへ教育宣伝部では、佐田本部長に突撃インタビューをおこない、佐田本部長の近況や、組合員さんに伝えたい想いなどを伺つてきました。12月号と新年号の2回にわたって、お届け致します。

特別企画 突撃インタビュー! （前編）

23年前に組合の執行委員として送り出してもらつて以降、数多くの経験をしてきましたが、そのどれもが大切な思い出です。の中であえてベスト3と言えば、第1には、やはり差し戻し案件になつた「人財賃金制度改定」でしようか。

当時は、年功性の制度によつて、勤続が長いほど賃金が高く逆に短いほど低いという、いわゆる「賃金の二局化」が問題視されていました。しかし、それを解消するに

佐藤…次は組合を作り出した「医療共済制度」ですね。先ほどお話しした人事賃金制度改定案を差し戻した結果、時間をかけて賃金の二局化を解消していくうとなり、一定の賃金水準に到達した人たちの配分を原資として、若年者・短勤続者に手厚い配分をおこなつてきました。しかし、いくら一定の賃金水準に到達しているとはいえ、その絶対額は決して余裕の持てる金額ではなく、家族

活動がかなりハードなため、家ボーツとしていることが多くなりました(笑)――想像以上にハードなんですね…。それでは突然ですが、組員を務めてこれらたゞ経験ので、特に印象に残っている思い出教えていただけないでしょうか。教えてえなければ、ベスト3でお願いします。

――様々な会議に出席したり、他団体を訪問したりで、毎日大忙しそうですね。お休みの週も週に1回は会議に出向かれるのですね。お忙しさも変わったのではないですか?

議や、事務局内部の会議、地区
会議などで挨拶をさせられて
ます(笑)。また協力団体の中
は、自前の共済を運営されてい
る団体や、福祉事業の推進会議を
極めて展開されている団体もあり
ので、直接お邪魔して、お札を兼
て、さらなる事業推進のお願いを
回るといったこともしています。
もちろん今は専門的知識を習得す
るために勉強も仕事のうちです。

は、莫大な資金を投入するか、高いところから引っ張ってくるかの二
者択一しかありません。当然、会社
は、後者を選択し提案してきたわ
けですが、これがまた大変で、会社
提案説明の職場オルグでは、先輩
方から掴みいかからんばかりのもので

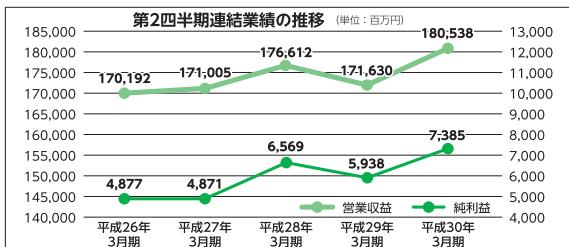
になつて頑張つてくれた仲間たちのおかげだつたと感謝しています。――今では、組合員の皆さんの大きな支えとなつてゐる医療共済制度ですが実現するまでは大変なご苦労があつたことが、とてもよく分かりました。それでは、あとつ挙げるとすれば、何になるでしょうか?

やつと説明会が開けるところまで、こぎ着けることができたときは、本当にうれしかったことを思い出します。しかし、それはでき上がりたことに対してうれしかったのではなく、何度も何度も挫折しながら、それでもあきらめずにやり遂げようとする検討委員会の皆さんとの姿に対してだったと思います。私は一人ではとても完成させることはできませんでした。夜遅くまで一緒に

として、「医療共済制度」の取り組みを進めてきました。

の確立が急務だと思つてました。もちろん運動論としての側面をかみ合わせる必要があると考えてましたし、労働組合の求心力が低下している現実を反省した上で、組合の役割と必要性についての議論ができる機会にする必要がありました。從って、組合としても組合費の有効活用と、組合員のための労働組合であるとの認識をお互いが再確認できるようなな仕組み

構成や地域環境、あるいは居住環境や健康状態などのリスクを相殺すれば、むしろ窮屈になった組合員も少なからず存在していたのが事実です。



連結業績
純利益
過去最高

私鉄総連「第41回中央労働学校」

■開催日:11月8日(水)~10日(金) ■場所:静岡県伊東市

静岡県伊東市で、「私鉄総連第41回中央労働学校」が開催され、西鉄労組からは、早田分会長・坂本分会長(国物中央)、大塚女性委員(金武)の4名が参加。専門的で高度な内容の全5講座を受講して知識を深めるとともに、分散会では、他労組の組合員と意見交換をおこない交流を深めた。



早田 裕二

は、難しいところもありましたが、労働組合として直面しなければならない事案であり、良い勉強になりました。分散会では、バス部門の参加者どうしで、人員不足、定着率の悪さといった共通する課題について議論し、待遇改善だけではなく働き方の問題もあると感じました。第4講座では、36協定が私の認識より奥深く難しいものであることを知りました。第5講座は、普段とは違った観点から経営分析をするもので、やや難しい内容でした。今回、奥深い専門的な知識を得ることができて、スキルアップで合活動に役立てていきたいと思います。



塚原 芳浩

は、私たち組合員が、労働にこなつていなければならぬと思いました。たうえで、様々な取り組みをおこなつていかなければならぬと思いました。私は、私たち組合員が、労働にこなつていかなければならぬと思いました。たうえで、様々な取り組みをおこなつていかなければならぬと思いました。



大塚 恵

は、初めて労働学校に参加させていただいて、聞いたことはあるけど、詳しくは分からぬことをたくさん知ることができます。西鉄労組家庭会第58回定期総会を開催し、組合員のご家族約50名が出席。2017年度活動方針を決定し、「会員相互の連帯・連携を強化し、ワーク・ライフ・バランスを推進しよう」などのスローガンのもと、新年度の活動をスタートさせた。

は、初めて労働学校に参加させていただいて、聞いたことはあるけど、詳しくは分からぬことをたくさん知ることができます。西鉄労組家庭会第58回定期総会を開催し、組合員のご家族約50名が出席。2017年度活動方針を決定し、「会員相互の連帯・連携を強化し、ワーク・ライフ・バランスを推進しよう」などのスローガンのもと、新年度の活動をスタートさせた。

「中央労働学校」に参加して

「中央労働学校」に参加して、様々な知識を得て、スキルアップできた

「36協定の締結の仕方」
第4講座
明治大学准教授 松岡一郎氏

「私鉄労働者のための経営分析」
第5講座
明治大学大学院教授 山口不二夫氏

「公共交通の現状と課題」
第2講座
東洋大学客員講師 石井晴夫氏

「産別運動強化のために」
第1講座
総連中央執行委員長 田野辺耕一氏

「働き方改革」
第3講座
明治大学准教授 松岡一郎氏

「公共交通の現状と課題」
第2講座
東洋大学客員講師 石井晴夫氏

「産別運動強化のために」
第1講座
総連中央執行委員長 田野辺耕一氏

「働き方改革」
第3講座
明治大学准教授 松岡一郎氏

「公共交通の現状と課題」
第2講座
東洋大学客員講師 石井晴夫氏

幅広く、専門的な知識を深める

る改めて認識しました。まずは、私たち組合員が、労働にこなつていかなければならぬと思いました。



国物中央分会 坂本 大輔



働き方改革・36協定、改めて理解を深める

「第1回ユニオンスクール」開催

■開催日:11月29日(水)

■場所:西鉄労働会館

選舉制度の詳細を再確認

11月29日(水)、西鉄労働会館にて「第1回ユニオンスクール」を開催し、中央委員・特別中央委員が参加。松

本政治部長が、「選舉制度の仕組み」と題して、「もりやたかし氏が立候補予定の参

議院比例代表選挙における参

ドント方式の仕組みなどに

かし氏が立候補予定の参

議院比例代表選挙における参

議院